

家庭科

主任：久間 典子

(1) 今年度の目標

- ①人の一生を考えるとという視点から生活に関する知識と技術を総合的に学習させる。
- ②興味・関心をもって生活課題を工夫改善する態度を育成する。

(2) 主な取り組みの計画

- ①生徒の生活力の伸長を視野に入れた授業。
- ②生活を学ぶことに興味を持てる教材の工夫と改善。
ア中学校での既習事項や他教科との関連を図り、生徒の実態にあわせた教材の選定。
イ効果的で効率のよい視聴覚教材の取り入れ。
ウ『模擬体験や作業学習』の取り入れによる自ら気づき学ぶ姿勢の育成と、生徒同士の情報交換。
- ③学習過程を大切にしたい問題解決学習『ホームプロジェクト』
特に今年度はHR教室での知識学習や作業学習の効率化をすすめたい。

(3) 授業アンケートの結果と分析

例年通り8割の生徒は前向きに楽しく授業を受け、7割強の生徒が授業の内容を自分の生活に取り入れよう、大学生になったら実践しようと思っている。

本年度からの新指導要領の内容については、中学校での既習事項を考え重複を避けるように精選をしたが、予想以上に中学校差があり分野によっては授業内容がわかりにくいと答えた生徒が多かった。家庭科は生活全般を扱うとても分野の広い教科であるので難しいが、今後継続して中学校の既習事項を把握していく必要がある。

調理実習については個人差はあるが、おおむね時間的にも技術的にもよいと思っている。保育体験実習については1割くらい事前授業をもっと時間をかけてほしい希望があった。

(4) 今年度の成果と課題

今年度は12月に前倒して保育体験実習を行った。インフルエンザの流行を避けることができ時期的にはよいと思った。これに伴って授業の順序を入れ替える必要ができ一部変更をしたが、全体の流れが非常に悪くなってしまった。

人の一生を扱う教える教科であり、前述のように内容が多く毎年悩んでいるが、今年は例年以上に、高齢者、被服、経済の分野がうすくなってしまった。

今年度は特にHR教室での授業を能率化したいと例年より多くプロジェクターを持ち込んで授業を進めたが能率が悪く、まだまだ授業構成を改良する必要がある。